

在宅看護援助論

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：演習

単 位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：在宅看護の対象である在宅療養者、障がい者および要支援要介護者とその家族の健康と生活について理解し、在宅看護の方法を学ぶ。また、在宅ケアを支える保健・医療・福祉システムについて学習する。

- 到達目標**：①訪問看護ステーションの運営および訪問看護師の活動について理解する。
②在宅看護過程の基本について理解する。
③在宅ケアに必要な保健・医療・福祉システムについて理解する。
④地域包括ケアシステムの概要およびケアマネジメントの基本について理解する。
⑤在宅療養者の様々な健康状態と生活上の諸特徴、援助方法を理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎菊地 ひろみ・スーディ神崎 和代・石崎 剛・松田 諭・石谷 タ子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 在宅看護活動の実際（1）：訪問看護ステーションの運営、体制
第2回 訪問看護と制度、社会資源：在宅ケアに関連する主な制度、社会資源（フォーマル・インフォーマル）
第3回 在宅医療と看護：在宅診療とは、在宅医の活動、在宅医と訪問看護の連携
第4回 在宅看護活動と多職種連携：病院・施設から在宅看護への継続 看看連携、地域の中の多職種連携
第5回 地域包括ケアシステムと在宅看護：地域包括ケアシステムとは、地域包括支援センターの役割と活動
第6回 介護支援専門員とケアマネジメント：居宅介護支援事業所、介護支援専門員の活動とケアマネジメント
第7回 介護予防と看護職：地域包括支援センターでの看護職の活動、介護予防の取り組みと看護職の役割
第8回 在宅看護活動の実際（2）：在宅看護過程の枠組みおよびアセスメント
第9回 在宅看護活動の実際（3）：在宅看護過程の実施と評価
第10回 在宅における対象別看護（1）：長期臥床療養者に対する在宅看護
第11回 在宅における対象別看護（2）：難病療養者に対する在宅看護
第12回 在宅における対象別看護（3）：精神障がい療養者に対する在宅看護
第13回 在宅における対象別看護（4）：小児と家族に対する在宅看護
第14回 在宅における対象別看護（5）：がん療養者に対する在宅看護
第15回 在宅における対象別看護（6）：認知症療養者に対する在宅看護

※オムニバス形式のため、順序および内容が一部変更する可能性がある。ほぼ毎回、講義と演習を組み合わせで行う。

■**教科書**：『在宅看護学講座』スーディ神崎和代他編（ナカニシヤ出版）

- 参考文献**：『在宅看護論-地域療養を支えるケア』櫻井尚子他編（メディカ出版）
『場面でまなぶ在宅看護論』@supple編集委員会編（メディカ出版）
『実践事例で学ぶ介護予防ケアマネジメントガイドブック』辻一郎監修（中央法規出版）
『ICF対応居宅ケアプラン記載事例集』篠田道子執筆監修（日総研出版）

■**成績評価基準と方法**：定期試験（80%）、授業内レポート・演習提出物（20%）、および授業態度により総合的に評価する。定期試験の正解率が60%未満の場合は再試験の対象となる。2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象としない。

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④	到達目標⑤		
定期試験	◎	◎	◎	◎	◎	正解率60%以上	80%
授業内レポート 演習提出物	○	◎	◎	◎	◎	レポート内容の適切性、 妥当な記述量	20%
授業態度	○	○	○	○	○	講義・演習への取り組み 姿勢	評価時の参 考とする
出席						1/3以上の欠席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：在宅看護学概論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：在宅看護学は各看護分野との関連が深く、応用的かつ実践的な領域です。専門的な内容を豊富に含みますので、講義・演習以外にも資料を活用し、主体的な取り組みを期待します。